重要文化財大安寺本堂ほか７棟 保存修理事業の経過報告

山門と鐘楼が完成間近です

今回の８棟保存修理工事では山門と鐘楼がまず完成予定です。２棟とも、一旦すべての部材を解体してから組み上げ直す解体修理を行いました。組立工事はほぼ終わり、現在、山門は外構工事に、鐘楼は屋根工事に取りかかっています。

山門は屋根工事が終わり 外構工事をしています

山門は越前赤瓦で葺き替えとなった屋根工事が終わり、袖塀も含めすべての屋根が赤瓦で葺かれました。そして笏谷石で作られた石鬼、石棟も取り付けられました。全体を覆っていた素屋根が外され、修理後の姿が見えるようになっています。

外構工事では、以前車道として舗装されていたアスファルトを剥がし、車道整備前の石敷に戻します。建立時は石敷の石も笏谷石を使用していたと考えられます。

車道整備前の山門(大正頃)

鐘楼はこけら葺きの屋根になります

基礎の石垣部分を積み終わっていた鐘楼は、木部の組立工事に入りました。根継などの補修をされた木材が組み上げられ、以前と同じ姿を取り戻しています。

建立から約 350 年以上、約 800 キロの鐘を吊り下げ続けすり減ってしまった金具もきちんと修覆されました。そしてまた再び鐘を吊り下ろしています。

鐘楼はこれまで瓦葺の屋根でしたが、解体に伴う調査の結果、建立当初からこけら葺の屋根であったことが分かり、復原することになりました。

屋根上部には、山門と同じく笏谷石で作られた石棟が取り付けられる予定です。

? こけら葺とは多くの文化財建築で見られる伝統的な屋根葺手法のひとつで、短く薄い木の板を幾重にも重ねて葺く工法です

本堂は揚屋（あげや）工事が始まります

本堂は基礎の補修や補強のために建物全体を持ち上げる揚屋工事を行うことになっています。現在は基礎の石などを取り外し、建物を持ち上げるための準備を進めています。

基礎に使用されている石材は大きく重いので、機械を使って持ち上げています。取り外された石材は割れや欠けなどが補修され、再び基礎に戻されます。

また、根元ではなく高い位置で継木をする柱については、揚屋工事の前に継木を行っています。現在はこのように、元々使用していた木材である古材と新しい木材との境目が遠目からでもはっきりと分かりますが、最終的には新しい木材にも古材に合わせた塗装をします。

今後の工事予定

山門と鐘楼が完成し、本堂は建物全体を持ち上げる揚屋工事に入ります。

令和４年度からは本堂の組立工事が本格化し、これまでの解体工事で取り外した古材の補修、補強がされたあと、新たに組み上げていく工程が続きます。

これまでの工事の様子は動画でも公開しています。ぜひご覧下さい。

令和元年度まとめ

令和２年度まとめ

設計監理：公益財団法人文化財建造物保存技術協会（東京都荒川区）
工事請負：松浦建設株式会社（石川県能美市）

修理現場から 文化力 POWER OF CULTURE